

歴史ある由緒正しい神社「八幡さま」 7月の例大祭は 町をあげての盛り上がり

徳持神社

徳持神社（大田区池上、大村忠宮司、03・3751・2612）は、誉田別之大神（ほんだわけのみこと、15代応神天皇）、相殿は宇迦之御魂大神（うかのみたまのみこと）を御祭神とし、「八幡さま」と呼ばれている。御創建は建長年間（1249～55年）まで遡り、豊前の宇佐神宮より御分霊を勧請したと伝えられる。荏原郡池上村大字徳持の住民の守護神として崇敬され、御旗山八幡宮とも称された。もともとは、徳持の南地区に鎮座、徳持村の鎮守となっていたが、明治39年、池上競馬場の設置に伴い当地へ移転、明治41年に徳持上宿に鎮座していた稲荷神社を合祀し、八幡神社から徳持神社と改称して現在に至る。



同神社の拝殿と大村宮司

年間祭事の一つとして、7月20日前後の土・日曜日に行われる例大祭は、毎年池上の町に賑わいをもたらしている。本祭は2年に1度で、陰祭にあたる年は、神社神輿が土曜の宵宮だけ渡御し、本祭の年は金曜日に神輿に御神霊を遷し、土曜日に例大祭式典を行い、日曜日に本社神輿が宮出しされ氏子町内を練り歩いた後夕方宮入りする。商店街から神社まで提灯が立ち並び、境内には露店が多数出店し、参拝客で溢れお祭りらしい雰囲気になり盛り上がりみせる。

大村宮司は、「祭りは人々の心を一つにして、職業や信条の垣根を越えて地域社会の連帯意識を育て上げる最大の場です。神社の境内に多くの人が集まり、盛大なお祭りが執り行われることは、その町の栄えの証です。皆で掛け声をかけ神輿を担ぎ、振ることにより、神様を奮い立たせ、人も栄え、社会も発展し、神様も悦び、平和を保ち、明日へ働き続ける力を湧き立たせるものです」と語る。

皆様も是非一度この歴史ある由緒正しい神社に参拝し、夏には盛大なお祭りに参加してみたいかが？